

事業名	林道作原沢入線展望台等整備事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	観光推進課		林道作原沢入線展望台等整		款	7	新規or継続	新規事業
	係	観光推進係		備事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	212	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	R5	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	施設等整備事業
	施策	2	魅力ある観光資源の開発と整備						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（１）事業概要

事業概要	観光資源として林道作原沢入線に展望台等を整備し新たな観光ルートを開発する。
------	---------------------------------------

（２）目的

目的 (本事業によって成し 遂げたい 状態)	観光誘客の推進	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

（３）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（１）活動実績

活動実績 (R５年度に 行った主な活 動内容)	展望台等の整備に向けた概略設計の実施。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		概略設計の進捗率	%	-	-	100
		事業費計	千円	0	0	1,760
		一般財源	千円	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	1,760
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（２）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（３）活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	市の観光客入込数はコロナウイルス感染症が５類に移行したことに 伴い増加したが、展望台等の整備は未完成のため因果関係はない。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

（４）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（５）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の 指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4．次年度に向けた検討

（１）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度で概略設計を実施したが、地権者への説明が行われておらず、展望台等の設置の実施の了承は得られていない。今後事業実施のために、地権者の了承を得ることが必要である。
--

（２）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 予定では令和6年度詳細設計の実施、令和7年度に設置事業の予定であるが、地権者の同意が得られていないことから、事業年度の見直しが必要となる可能性が高い。
---	---

事業名	観光資源開発推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課			款		新規or継続	継続事業
	係	観光推進係			項		市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	212	名称		目		義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H27	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度		事業分類	その他内部事務事業
	施策	2	魅力ある観光資源の開発と整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	本市に埋もれていて、まだ多くの人に知られていない観光資源の調査・発掘や、新たな観光ルートの開発によって、新たな観光資源として活用できるか調査研究を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	新たな資源開発の発掘・整備を行い、観光資源として整備し、観光誘客につなげる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	ためふふるさと館、あきやま学寮、蓬山ログ、白ハゲ口、宇津野洞窟、蓬萊山の修繕等を行い、県と連携しサイクリングルート(連携ルート)を新たに開発した。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		調査した観光資源数	箇所	1	1	1
		開発・整備した観光資源数	箇所	0	2	7
		開発・整備した観光ルート	ルート	0	0	1
		事業費計	千円	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	現存する施設の修繕を行う、また県と連携してサイクリングルートを新たに開発することで、観光客の増加につながる要因とすることができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し	○		
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

さらに新たな観光資源を開発・発見することで、観光入込客数の増加につなげることができるよう、事業を推進する必要がある。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
--	------